

令和6年度第3回大船渡市固定資産評価審査委員会会議記録

日 時 令和6年10月10日(木) 午前9時～午前9時30分

場 所 大船渡市役所応接室

出席委員 鈴木信男委員、金哲朗委員、中井孝委員

事務局 松川総務部長、藤原総務課長、佐々木課長補佐、金野係長

評価担当課 森税務課長、佐藤係長

議事等内容

1 開会

2 議事

(1) 委員長の選任について

委員長に鈴木信男委員を互選。

【鈴木委員長挨拶】

・引き続き委員の方々と協力しながら進めていきたいと思うので、よろしくお願
いする。

(2) 委員長職務代理者の指定について

鈴木委員長が金哲朗委員を指定。

3 その他

資料「震災前後の標準宅地の推移について」により、税務課から説明。

【森税務課長】

以前から鈴木委員長から固定資産に係る情報共有を依頼されていたが、鈴木委員
長と相談し、「震災前後の標準宅地の推移について」説明することとした。

担当から説明させていただく。

～佐藤係長から資料説明～

【金委員】

浸水区域外の土地の価格は徐々に上昇しているということだが、浸水区域外とい
ってもどこを標準にしていくかによると思う。

震災後に宅地として人気が上がったのは猪川地区であり上昇率も高かった。その
他の地区については、あまり変化がなく、例えば、日頃市町については下落してい
る。

総合的に見れば、平均して若干上昇していると考えていいか。

【佐藤係長】

山間部を中心に下落しており、市内の平均も下落はしているが、需要が高いとこ
ろについては上昇しているという状況である。

【中井委員】

震災前を100としたときに、令和6年度が82.8%なので、市内全域ではかなり下

落しているが、この資料にある大船渡町の津波区域外や、この資料には無いが猪川、立根などについては上昇している状況ということと思われる。

【鈴木委員長】

可能であれば、地域ごと、地目（用途）ごとの資料があれば良かったと思う。

【金委員】

最近は、所有者不明の土地が多くなっている。

遠方に住んでいるため連絡先が分からずに、連絡を取れないケースがあり、土地を処分する際の妨げとなっている。

国庫帰属という考え方もあるが、ハードルが高い。宅地で一定の面積が確保できるなど処分できる状況にある土地であればいいが、傾斜地や山林などは難しいようである。

【鈴木委員長】

相談は受けるものの、山林や山間部の農地については、買い手がおらず、簡単に処分できない状況のようである。

5 閉会